

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2023年  
4月17日  
第150号



## ワサビノキ (ワサビノキ科)

温室の中で、ワサビノキの花が咲き始めました。属名の「モリンガ」と呼ばれることが多い、インド原産で亜熱帯地域で栽培されている木本植物です。インド、タイ、フィリピン、台湾など栽培され、若い果実や葉が野菜として食されています。また、種子を圧搾して製した油は、化粧品や整髪料、潤滑油や、バイオ燃料としても、利用されているそうです。インドの伝統医学、アユルヴェダでは、種子、根、樹皮、葉を各種疼痛、浮腫、眼病、皮膚病などに利用するそうです。中医学では、種子が辣木（ラツボク）という生薬となり、健脾、利湿を目的に、のぼせ、浮腫、腹満、下痢などに使用するそうです。ワサビノキは沖縄県でも栽培され、葉の粉末が機能性食品として国内でも市販されています。ただ、各種、謳われている機能性で、信頼できる臨床試験の結果はなく、栄養価の高い野菜として食するだけでよいでしょう。

## オニグルミ (クルミ科)

本園、温室の前で、雌花が咲いているのを見つけました。北海道から九州まで広く分布する落葉広葉樹です。果実は食用となり、非常に堅い殻（核果）を割って内部の仁（種子）を食します。また、材はウォールナット材として、建築や家具にも使用されます。果実または果皮が、生薬の核桃楸果（カクトウシュウカ）となり、中国での民間薬として、酒に浸して胃腸病、腹痛に使用するそうです。また、日本の民間薬としては、種子を胡桃仁（コトウジンまたはコトウニン）という生薬名で、喘息、便秘、インポテンツ、腎結石に薬効があるとされていますが、中国での胡桃仁は別種であるシナノグルミの種子を基原としますので、日本で購入するときは原料となる植物に注意する必要があります。中医学での胡桃仁は、補腎固精、温肺定喘を目的に、喘息、腰痛、遺精、頻尿などに使用されます。